# 令和６年度第２回　瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会

## 令和５年度通常事業事後評価　議事録

**日　　時**：令和６年８月６日（火）　午後６時００分から午後９時００分

**場　　所**：瑞浪市役所西分庁舎　１階会議室

**出席委員**：山内　正雄（委員長）、辻本　紀み子（副委員長）、富田　宏、柴田　洋子、
谷本　陽子、大宮　康一
※委員６名中６名の出席であり、委員の過半数の出席となり、瑞浪市夢づくり地域交付金等事業審査会規則第６条第２項の規定により、本会議は成立。

**事 務 局**：瑞　浪　市　長　水　野　光　二
みずなみ未来部長　正　木　英　二

**事務局職員**：市民協働課長　奥　谷　ひとみ
まちづくり支援係長　中　筬　高　弘
まちづくり支援係　大　髙　まりあ

**次　　第**：１．市長あいさつ
２．委員長あいさつ
３．審査会の進行等についての説明
４．活動報告
・令和５年度夢づくり地域交付金事業（通常事業）
５．閉会

【１　市長あいさつ】

各審査員の皆様、本日は御出席いただき、ありがとうございます。瑞浪市は市制施行 70 周年を迎え、早くも半年が過ぎた。4 月から、各種イベントに 70 周年記念の冠を付けていただき、市を挙げて祝う 1 年としてスタートした。おかげさまで新型コロナウイルス感染症も落ち着き、多くの皆様にイベントへ参加いただいている。70 周年にふさわしい取組ができているのではないかと思う。後半の 6 か月間には、70 周年に向けて企画した大規模なイベントも続く。3 月まで各種記念事業をやり切り、市民の皆様と 70 周年を祝いながら、次の 80 周年に向けて決意を新たにする 1 年にしたい。

本日は、令和 5 年度に各地区で実施された、まちづくりの通常事業について審査・評価をしていただく。新型コロナウイルス感染症の 5 類移行を契機に、市民の皆様も地域のイベントへ少しずつ参加されるようになった。完全な回復には至っていないが、地域づくり、まちづくりに参加したいという前向きな思いを持つ方が多くいらっしゃることを、昨年度改めて確認できたのではないかと思う。今年度も、各地域で策定いただいた地域計画を基に、地域にふさわしい事業を提案し、取り組んでいただいている。今回は令和 5 年度の事業審査である。まちづくりに取り組む皆様の発表をお聞きいただき、適切な御指導、御指摘を賜りたい。

【２　委員長あいさつ】

報道では、株価が 1987 年以来の大幅な下落となったと伝えられている。こうした事業を推進していくためにも、経済がしっかりしていることの大切さを改めて感じている。

本日は、令和 5 年度事業の事後評価を行う。来年度の事業計画の策定に参考となるよう、積極的な御意見やアドバイスをお願いしたい。

【３　審査会の進行等についての説明】

≪審査会の進め方について事務局より説明≫

～質疑なし～

【４　活動報告】

≪①各地区からの事業説明≫

～省略～

≪②質疑・意見交換≫

**陶町明日に向って街づくり推進協議会（以下「陶」）**

**〇委員　交流人口拡大事業　文化振興事業　環境美化事業　防災減災セーフティーネット事業**

看板設置について、数や内容はどのようか。また、中馬街道の散策は、授業の一環として行ったものか。

花壇整備について、種から苗を育てる負担が大きい場合は、ポット苗の購入など、予算を活用して現

状に合った方法へ見直してはどうか。

昭和 47 年災害に関する学習について、講師体制、感想文等の記録、非常食の体験を含めた実施予定を確認したい。

●陶

昨年度、中馬街道に関する案内看板を吹越から大川にかけて設置したほか、登山道にはウサギ岩・天狗岩までの距離を示す看板を約 10 枚設置した。これらは中馬街道および登山道の整備の一環である。中馬街道の散策は、小学校と日程を調整し、学校が手配したバスで、教員とともに授業として実施した。子どもたちはその後、中馬街道に関する新聞を作成し、新聞コンクールで入賞した実績もある。

花壇の夏花は種から育て、冬花は苗を購入している。活動方法の変更には、長年活動してきた人の理解を得る必要があるため、負担軽減と活動継続の両立に向け、まちづくり推進協議会で検討を進めている。

昭和 47 年災害に関する学習では、市議会議員の加藤輔之氏が継続して講師を務めている。当時の写真や資料を活用して講義を行い、子どもたちの感想や新聞をコミュニティセンターに掲示している。非常食は講演時には提供していないが、避難所体験の際に持ち帰り用として配布している。

**○委員　交流人口拡大事業　文化振興事業**

交流人口拡大事業と文化振興事業の両方で看板設置費が計上されているが、それぞれ別の看板を設置したものか。

●陶

看板やマップ作成は、企画広報部会と文化教育部会が合同で実施した事業である。事業費は両部会で半額ずつ計上したため、二つの事業に予算が分かれている。

**○委員　環境美化事業**

環境美化事業について、園芸種の植栽に手間がかかる場合、在来種を活用したビオトープのような整備も検討できるのではないか。

**○委員　防災減災セーフティーネット事業**

活動の見直しに当たっては、部会の在り方も検討すべきである。

また、自主防災訓練の消耗品費の実績が 0 円となっているが、どのような支出を想定していたのか。

●陶

自主防災訓練費は使用せず、東日本大震災の被災体験者を招いて小学校で実施した講演会の費用（講師の旅費や謝礼、宿泊費）に流用した。

**○委員　防災減災セーフティーネット事業**

震災体験講演会の参加者は 30 人とのことだが、今年度も実施予定があるのか。

●陶

今年度の実施予定はない。

＜市長コメント＞

陶町は、瑞浪市におけるまちづくり活動の草分け的な地域である。地域の将来を自主的に考え、住民自らが立ち上がって活動を始めてから、約 40 年になると聞いている。地域計画についても、約 40 年前から地域の皆さんが自主的に策定し、その計画を実現していくために、現在のまちづくり活動が始まったと認識している。今回、新たに会長が就任され、これまでの活動を基盤としながら、さらにさまざまな取組を進めていきたいとの話も伺っている。今後の活動に大いに期待したい。

**大湫町コミュニティ推進協議会（以下「大湫」）**

**〇委員　中学生と語る会**

資料に八瀬沢の一里塚の写真がある。30 年前、名古屋の知人が来訪した際に案内したが、その時も草がきれいに刈ってあった。現在もきれいに整備されている。ぜひ整備を継続していただきたい。

**〇委員　問屋場跡公園の再整備　大湫町子育て支援事業**

問屋場跡公園は整備が進んでおり、期待できる。民泊の営業予定地の利用者の見込み人数はどの程度か。

また、「てくて」の立ち上げ時から話を聞いていた。これほど早く成果が出ているのは、住民がまちに誇りを持てるイベントとして、若い住民を中心に高齢者も巻き込むことができているためだと感じる。皆さんの思いは写真からも拝見できる。ほかの地域でもこのような取組ができれば、将来の瑞浪市は安泰である。ぜひ率先して取り組んでいただきたい。

**●大湫**

宿泊客については、現在、中山道を歩く人の宿泊先としては日吉の大黒屋があるが、規模を縮小している。大湫には宿泊施設がないため、宿泊客を取り込みたいと考えている。多数の宿泊客は見込めないかもしれないが、宿泊所ができれば、訪問者を呼び込むことができると考えている。

「てくて」について、今年度は夢交付金の活用はないが、活動は継続している。

**〇委員**

町民の方に野点など和風で魅力的な取組をしていただくなど、それらを組み合わせながら、ぜひ整備や企画を進めていただきたい。

**〇委員　中学生と語る会**

中学生と語る会について、実績額が少ない理由は何か。

**●大湫**

当初は 30 人を想定していたが、参加者は 7 人だったため、必要な金額のみを使用した。

**〇委員　中学生と語る会　問屋場跡公園の再整備**

中学生と語る会では、飲食店や店舗が少ないとの意見があった。宿泊所の整備とこの課題とのつながり、また今後検討していることはあるか。せっかく中学生から意見が出ているため、それを生かせるとよいと思う。

●大湫

今後のまちづくり活動の中で、その点も織り込みながら、まちの活性化に取り組む必要があると感じている。まずは、宿泊場所と食事をする場所の整備が必要である。現在もレストランがあるが、より積極的に利益が出るほど客が訪れるようになることが望ましい。現状はやや寂しい状況であるため、さらに PR を行い、活力が生まれるような計画を立てていきたいと考えている。

○委員　大湫町子育て支援事業

先ほど大杉を使った太鼓について話があった。どのような太鼓か。

●大湫

一般的な大きい桶太鼓ではなく、小さい太鼓である。

＜市長コメント＞

大湫町の特徴は、特に地域課題の解消に資するハード事業に重点を置いて取り組んでいる点にある。今回の公園再整備は、大湫らしいまちづくりの課題解消につながったのではないかと考える。あわせて、「てて」活動や、昨年度は大湫が当番であったことから、中学生と語る会が開催された。今回も交付金を有効に活用していただいた。中学生からはさまざまな課題や指摘があったため、それらを解決していくことも重要である。まちづくりだけでは対応できないこともあるが、民泊についても大湫町がどのように関わっていくのか、今後もよろしくお願いする。

釜戸地区まちづくり推進協議会（以下「釜戸」）

○委員　青少年健全育成事業

志多らによる演奏とワークショップについて、委託料には何が含まれているのか。

●釜戸

講師料、交通費等も含め、一括で 25 万 3,000 円を支払った。このうち、交通費が約 3 万円であるため、約 22 万 3,000 円が講師料となる。プロの演者 5 人に来ていただき、30 分間の演奏会を実施していただいた。本来であればかなり高額になるが、瑞浪市での開催ということで割引していただいた。今後は内訳が分かるように記載する。

○委員　かまど活性化・魅力発信事業

夏祭りには多くの方が来場したとのことだが、地域内と地域外の来場者の割合はどの程度か。

●釜戸

地域内外の割合について、把握できる数値はない。コロナ禍には受付で氏名や地区を記入してもらっていたため把握できたが、今回は実施していない。ただし、抽せん会を実施するため全戸配布を行い、約 300 件の参加があった。1 家族当たり 3 人程度と考えると、約 900 人は釜戸町の方ではないかと考えている。また、釜戸ブリュワリーの来客や、花火を見るために電車で来場し、川沿いに並んでいた方もいたため、こうした方々は町外からの来場者ではないかと考えている。

**〇委員　青少年健全育成事業**

委託料については、志多らに支払ったのか。別にコーディネーターはいたのか。

**●釜戸**

志多らに直接支払った。コーディネーターはいない。

**〇委員　青少年健全育成事業**

志多らには、以前、瑞浪市出身の方が所属していると聞いた。現在もいるのか。

**●釜戸**

代表取締役の方が瑞浪市出身である。

＜市長コメント＞

今回は、特に三つの事業に絞って実施していただいた。事業を絞ることで、それぞれの事業に集中して取り組むことができ、また、役員の皆さんの負担も軽減され、各事業に十分力を注ぐことができたのではないか。そのことが、今回の成果につながったものと考える。こうした考え方は、今後も継承していただきたい。事業内容がより一層充実していくものと期待している。

**土岐地区まちづくり推進協議会（以下「土岐」）**

**〇委員　青色回転灯防犯パトロール事業　青少年育成町民会議開催事業**

青色回転灯パトロールについて、協力者が増えている。まちづくり推進協議会から声掛けをしていただいた結果だと思う。また、回覧板でも周知されており、結果はすぐには出ないかもしれないが、努力を感じた。改善策として、PTA にも声掛けをしたいとのことだった。若い方で昼間の時間に都合がつく方もいるかもしれないので、ぜひアプローチしてほしい。

青少年育成町民会議について、事後評価調書に「来年度以降は、まちづくり推進協議会としての開催を中止する」とある。どういうことか。

**●土岐**

令和 5 年度までは、土岐地区まちづくり推進協議会の一つの事業として町民会議を開催していた。しかし、この会自体をまちづくり推進協議会として今後も継続していくべきかという意見もあり、一度その在り方を見直すこととした。今後は、青少年育成町民会議という形で実施するのではなく、コミュニティ・スクール活動など、より具体的な取組の中で青少年育成活動に力を入れていきたいという考えがある。令和 6 年度は、コミュニティ・スクールに関する事業に力を入れる計画としている。

**〇委員**

町民会議で出された意見や、これまで吸い上げられてきた意見は活用できなかったということか。

**●土岐**

活用できなかったということではない。ただ、現在、まちづくり推進協議会では事業の見直しを行う時期に入っている。その中の一つの取組として、今後の在り方を一度考える時間を取りたいと考えている。

**〇委員　青色回転灯防犯パトロール事業**

青色回転灯パトロールについて、若い母親から体験乗車をしたいとの希望があり、一緒に乗車した。少しずつではあるが、応援していきたい。

**〇委員　地域防災力強化事業**

テント用のおもりを購入しているが、体育館で実施された訓練の写真にはテントを使用している様子がない。もともと予定していた支出か。

**●土岐**

当初はテントを使用する計画があったが、結果的に今年度は使用しなかった。今後、防災事業で使用したい。

**〇委員　広報発行事業**

第 67 号のみ印刷費が高額となっている理由は何か。

**●土岐**

第 67 号は 6 月 1 日発行分である。6 月 1 日号には、まちづくり推進協議会の当年度事業計画と委員一覧を別紙 1 枚として挟み込んでいるため、その分、印刷費が高くなっている。

**〇委員**

子どもと親が一緒に触れ合えるような企画は考えているか。かつては夏祭りで親子が楽しむ様子が見られ、参加者も多かった。予算的に難しいのか。社会福祉協議会のイベントはにぎわっていた。まちづくり推進協議会も関わっていれば、さらに集客があったのではないか。

**●土岐**

現状では、集客を目的としたイベントを実施する計画はない。ただし、地域計画を策定しており、今後、その地域計画をどのように生かしていくかについて、まちづくり推進協議会でも協議している。その中で、子どもを対象とした取組を実施しようという話が出てくる可能性はある。今後の協議次第である。

＜市長コメント＞

多くの事業に取り組んでいただき、御苦労さまでした。土岐地区では、「草刈り女子」という大変意義のある取組を実施されている。令和 5 年度は夢づくり地域交付金の活用には至らなかったものの、土岐町の皆さんが自主財源で実施され、マスコミにも取り上げられるなど、大変評判の良い取組となった。自主財源による実施であるため今回の報告には含まれていないが、実際に多くの女性が参加されている。この取組は、土岐町が誇る事業として位置付けていくことが望ましいと考える。せっかく土岐町で始めた素晴らしい事業であるため、ぜひ今後も継続していただきたい。

（土岐）

今年度についても事業計画に位置付けており、既に募集を開始している。現時点で 16 人の応募があり、24 人を受け入れる予定である。今後、定員に達するのではないかと考えている。

明世地区まちづくり推進協議会（以下「明世」）

**〇委員　あきよウォッチング事業　スポーツ推進事業　青少年育成事業**

町民ウォーキングをスタンプラリーに変更した結果、参加者も多く、成功したと考える。今年度、町民ウォーキングに戻す理由は何か。ウォーキングとスタンプラリーでは、目的や趣旨が異なるのか。

スポーツ推進事業では、ノルディックウォーキングとストレッチ講習会を毎年開催している。事業目的には、町民の高齢化に伴い、健康づくり及び健康意識の高揚を図るためとある。一方、事業成果には、参加者の高齢化により新規参加者が増えず、伸び悩んでいるとある。健康寿命を延ばす事業であれば、対象とする年齢層を見直す必要があるのではないか。継続するのであれば、どこかで工夫する必要がある。

ストレッチやノルディックウォーキングは高齢者にとって非常に良い取組であるが、子どもと一緒に楽しめるスナッグゴルフなどの種目があってもよいのではないか。スポーツ推進事業と組み合わせることはできないか。

青少年育成事業として行っている風船飛ばしについて、良い取組であると感じた。短冊を付けて飛ばしているとのことだが、ごみの問題はどのように考えているのか。

**●明世**

明世ウォッチング事業については、令和 2 年度の新型コロナウイルス感染症拡大以前、町民ウォーキングを主要事業として実施していた。地区内に点在する名所旧跡や各種施設を巡るコースを設定し、明世地区の 3 地区を毎年替えながら実施してきた。地域の人や子どもたちが参加し、家族の絆を深めることも目的としており、毎回 150 人程度が参加していた。コロナ禍以降は、密を避けるために事業形態を変更し、スタンプラリー方式で実施してきた。本来であれば、令和 5 年度以降、従来の町民ウォーキングの形に戻したいと考えており、今年度の事業計画にも位置付けている。ただし、感染症の流行状況は不透明であるため、状況を見ながら対応していく。可能であれば、令和 2 年度以前の実施方法に戻していきたい。

スポーツ推進事業については、以前から継続している事業である。確かに、事業目的と成果には矛盾しているように見える部分がある。高齢化と一括りにしても、働き方の変化などにより、高齢者の定義や生活実態も変わってきている。実際には女性の参加が多く、友人同士のつながりを通じて 70 代、80 代を中心に参加している。一方で、体調不良などにより参加できなくなる人もいるため、参加者の裾野を広げる必要がある。年齢を限定せず、若い世代にも参加してもらえるよう広報しているが、現状では十分な成果につながっていない。

スナッグゴルフとの関連付けについては、面白い提案である。スナッグゴルフは打った後に走るなど体力を使う競技でもあり、地域の人が指導員として登録している。今後、連携の可能性を検討したい。

風船飛ばしについては、ごみに関する苦情が寄せられたことはない。この取組は、教育委員会が主催し、明世地区で実施するに当たり、地域に協力を依頼したことが始まりである。毎回 500 個から 700 個程度の風船を飛ばしている。短冊を付けているため、長野県方面まで届いたとの報告を受けたこともある。現時点では問題にはなっていない。

**〇委員　広報活動事業**

広報活動事業について、活動経過の経費が入力されていないのはなぜか。

●明世

入力漏れである。

○委員　青少年育成事業

町民会議では、どのような内容の発表があったのか。

●明世

小学校からは、明世に住んでいて感じることをテーマとした発表があった。ホタルに関する奥村氏の取組を取り上げたものや、明世小学校児童の登下校見守りに関する発表もあった。

中学校では、「明世をもっと元気にするために」をテーマとした取組があった。北中学校には明世地区以外から通う生徒もいるが、それぞれが自分たちの地域を元気にするための活動について考え、「このようなことをすれば地域が元気になる」といった地域活性化に関する発表を行った。

また、中京高等学校からも 2 チームが発表を行った。ミライ創ろまい課の地域活性化部における成果発表であり、令和 6 年度の活動にもつながっている。

○委員　青少年育成事業

青少年育成事業の中に、子どもたちが健全に育つための支援としてホタルに関する事業が含まれている。ホタルに関わる人材育成や取組は、別事業として位置付けた方がよいのではないか。青少年育成事業の枠組みで考える必要はないと考える。

●明世

ホタルの幼虫放流会は、青少年育成事業の一環として実施している。一方で、それ以外の取組はホタルを中心とした活動である。事業の位置付けについては、見直しを検討する。

＜市長コメント＞

明世地区では、新会長を中心に、町民の皆さんが一生懸命に支え合い、まちづくりを進めていこうとするチームワークが大変素晴らしいと感じている。特に、こいのぼり祭りは、これまで市が主催する形で実施してきたが、今年度からはまちづくり組織にも積極的に参加していただき、市と一緒に運営していただく形となった。まちづくりのブースも設けて取り組んでいただいており、市として大変ありがたく思っている。今後も、市や地域に加え、北中学校区における広域的な連携を一層深めていただきたい。また、中京高等学校の生徒とも連携し、活動に参加していただいていることは大変良い取組である。高校生にとっても、地域との連携を通じて学校外で多様な経験を得る機会となるため、学校側の意向とも合致するものと考える。今後も様々な関係者と連携しながら、まちづくり活動をより一層充実させていただきたい。

瑞浪地区まちづくり推進協議会（以下「瑞浪」）

○委員　安全・安心なまちづくり事業

自主防災訓練は中止したにもかかわらず、実績に支出がある理由は何か。

●瑞浪

前日に役員が準備を終えた後、翌日に熱中症警戒アラートが発表されたため中止した。準備済みの物品等は返却できず、その費用を計上した。

○委員　地域内の交流が活発なまちづくり事業

地域内の交流が活発なまちづくり事業に、保育園の一時預かり料金がある。内容は何か。

●瑞浪

家族ふれあい芋掘り大会で、幼い子どもを連れて参加しにくい家庭から要望があったため、近隣保育園に一時預かりを依頼した。その人件費等である。

○委員　安全・安心なまちづくり事業　潤いのあるまちづくり事業

AED・心肺蘇生講座は、日曜日の開催も検討されたい。参加しやすい層が広がるのではないか。

また、土岐川堤防健康ウォーキングの目標は 2,400 人でよいか。

ホタルは年々増え、子どもの参加も多い。会場周辺の清掃はまちづくり団体が行っているのか。清掃は生息環境の維持につながるため、引き続き取り組まれたい。温暖化による水温への影響はあるか。

●瑞浪

健康ウォーキングの目標は 2,400 人ではなく 240 人である。

草刈りは、ダイナム、まちづくり団体の役員、子ども会、地域住民、区長等の協力により実施している。

ホタルを放流している万尺川では、水温の変化は感じていない。一方、土岐川では鳥や魚が少なく、以前より活気がない印象を受けた。

○委員　安全・安心なまちづくり事業　潤いのあるまちづくり事業
地域内の交流が活発なまちづくり事業

健康ウォーキングは年配者の参加が多い印象であった。参加賞の食器用洗剤は、若い世代には魅力が薄い可能性がある。

ホタル鑑賞会は子どもが多く、車両誘導も適切であった。少数でもホタルには感動がある。

瑞浪市の小学生の主張大会では、将来、まちづくりに関わり、瑞浪市を変えていきたいという発表があった。農業体験に参加した子どもの中からも、そのような思いを持つ子どもが育つのではないか。

○委員　広報事業

Facebook は高校生や大学生には利用が少ない。対象者に応じた情報発信ツールの選択が必要である。

＜市長コメント＞

冒頭、会長から「以前に比べて活動内容が大変充実しており、すべてを報告したいところだが、時間の制約もある」とのお話があった。まさにそのとおりであり、以前と比べると、活動内容が大変充実していると感じている。また、一つひとつの活動が成果につながっており、その成果が目に見える形で表れてきていることを、大変うれしく思う。これは、長年にわたり積み重ねてこられた皆さんの努力の成

果であると感じている。本日も、長年にわたり活動に携わってこられた方々をはじめ、多くの役員・スタッフの皆さん、女性の皆さんにも出席いただいている。この地域は人口も多く、予算規模も大きい地域である。ぜひ今後も、しっかりとした運営のもと、より内容のあるまちづくりに向けたさまざまな事業に挑戦していただきたい。皆さんの今後ますますの活躍を期待している。

**明日の稲津を築くまちづくり推進協議会（以下「稲津」）**

**〇委員　文化・芸術・スポーツ推進事業**

ふれあい映画館について、以前は中学校の体育館を使用し、多くの方が来場していた記憶がある。コロナ禍を経て、再び中学校で開催し、中学生ボランティアにも協力いただく予定か。縮小したことにより予算が削減されたのかとも思うが、中学校で開催する場合は、より大きな予算が必要となるのか。

**●稲津**

令和 6 年度は、中学校の統合により瑞浪市立瑞浪南中学校となったことから、同校の体育館を借用して開催した。参加者数は前年度の 2 倍以上となった。ふれあい映画館は、町民に映画を鑑賞していただくだけでなく、中学生と一緒に開催することを目的として立ち上げた事業である。今年度は、中学生ボランティアに会場設営、受付、終了後の片付けに協力いただいたほか、子どもたちが司会進行も担った。開会の進行や社会福祉協議会支部長の紹介に加え、事前に調べた瑞浪の映画館に関する紹介もあった。子どもたちに地域行事へ参加してもらうことには、大きな意義があると考えている。予算については、中学校で開催することによって大幅に増額となることはない。映画の上映業者についても、毎年同じ業者に依頼している。

**〇委員　青少年健全育成事業**

青少年健全育成事業の中で環境調査を実施したとあるが、内容はどのようなものか。

**●稲津**

夏祭りの際、公民館を会場として開催し、来場者へチラシを配布するなど、青少年育成活動の PR を行った。あわせて、青色回転灯防犯パトロール車が町内を巡回し、子どもたちの状況を確認した。夏祭りのために外出した子どもたちが別の場所へ集まる可能性もあるため、見回りを実施したものであり、これを環境調査としている。

＜市長コメント＞

稲津は以前から、地域の各種団体を上手に巻き込みながら活動に取り組んでいる。そのため、様々なイベントにおいて、他地域と比べても町民の動員力があると感じている。各種団体の皆さんがそれぞれの役割を果たしている点は非常に先進的であり、他地域の参考になるのではないかと感じている。事業内容も常に充実している。特に文化・芸術・スポーツの分野では、芸達者な方が多く、コンサートでは町民の皆さんが自ら出演者となっている。演劇においても、町民の皆さんが役者として参加している。こうした活動からは、まちづくりの中にしっかりとした指導者がいることを感じる。引き続き、役員だけでまちづくりを運営するのではなく、各種団体に積極的に声をかけ、その力を生かしながら取り組んでいただきたい。

日吉町まちづくり推進協議会（以下「日吉」）

○委員　特産品開発事業　教育文化事業

シイタケの原木の確保について、前回、シイタケ体験を実施してはどうかという提案をした際、原木があまり手に入らないとの話があったが、今回は多くの数を確保できている。毎年の収穫目標は定めているのか。

また、弁財天池の清掃について、大変な作業だと思う。年 1 回の清掃で池はきれいになり、外来種の駆除はできているのか。また、業者に委託した方がよりきれいになるのではないか。

●日吉

今回は、日吉町財産区の山に原木に適した木があったため、まちづくりで伐り出しを行った。確保した 850 本のうち 500 本はまちづくりで伐り出したものであり、今回は大きな数字となった。また、シイタケの栽培目標については、毎年、目標値として何 kg という数字を設定している。ただし、雨が降ると重量が増えるため収穫時の気候によって収穫量は異なる。原木の本数を増やせば、収穫量は確実に増える。ただし、収穫できる期間はおおむね 5 年程度であるため、廃棄した分を補充する形で進めている。

弁財天の池の清掃については、外来種の駆除を年 1 回実施しているほか、周辺の整備や草刈りは年に数回行っている。外来種の駆除は、外来種がまだ小さい段階で行う必要があり、非常に大変な作業である。業者に委託することも可能だが、以前、県の補助金を活用して 2 回ほど実施した際はいずれも 200 万円近くを要したため、何度も実施することは難しいと考えている。

＜市長コメント＞

事業を絞り込み、取り組んでいる点は、それぞれの人材や予算を集中的に活用できるということであり、大変よい傾向だと思う。特に特産品の開発については、現在、ステップアップ事業を活用し、さらに充実を図っている。将来的には特産品化できるよう準備を進めているため、来年度以降、大変期待できる。写真を見ても、多くの地域の皆さんが、おそらくボランティアで参加しており、そうしたところも、まちづくりの大変魅力的な部分ではないかと思う。特産品開発については、今後さらに充実させてほしい。

また、日吉町には中山道が通っており、中山道ウォークや天神窯祭りなどのイベントが開催されている。特に素晴らしいのは、町内だけでなく、市外・県外からも多くの人がこれらのイベントに参加している点である。これは日吉町の大きな魅力であり、まちづくりに関わる皆さんがそれを上手に活用して発信し、集客に努め、実績につなげていることは素晴らしい。こうした来訪者に特産品を購入してもらえるような工夫もしていけば、さらによくなるのではないかと思う。

**【５　閉会】**

≪みずなみ未来部長より閉会のことば≫

以上